

県民の森「春の自然観察会」報告

日 時：2019年5月3日（金・祝日）

参加者：一般参加者 20名（他に農林公社栗島氏、駒井氏、埼玉インストラクター会
青柳氏、善宝氏）

担 当：飯塚 明、辰尾俊明

報告者：辰尾俊明

今年の県民の森「春の観察会」は、元号が5月1日から令和に変わった直後の令和元年5月3日に開催されました。

朝から青空の清々しいお天気で、連休中の絶好の行楽日和だったのと秩父の羊山公園の芝桜まつりの開催中と重なって、飯能からの299号線は朝から車列の途切れがない程混んでいました。開催時間の10時になっても24人の申し込み者の内8人が来ていない状況でしたが時間が過ぎたので開始しました。公社の方が挨拶をされ、続いて飯塚講師が本日の観察ルートと注意事項を説明した後、体操をして開始となりました。その後に4人が遅れて到着し、一般参加者20人、その他公社2名、インストラクター埼玉会2名、講師2名の総勢26人の集団でのスタートとなりました。

①学習展示館隣りの東屋からのスタートです。

ヤマザクラ、ソメイヨシノ、イロハモミジ、杉、トチノキなど東屋周辺にある樹木の観察から始まりました。ソメイヨシノは散り際だけれどヤマザクラは今が満開で、淡い感じがとても趣があると飯塚講師のお話がありました。又、トチノキの葉は秩父地方では養蚕が盛んな時、朴葉を使わず栄の葉で保存食を作り、食事で作業が中断しないように工夫していたそうですが、そのチマキみたいな保存食をツツコと言うそうです。公社の駒井さんからは東屋から広場をみて左前方にある低い杉の木について、花粉症問題を解消する為に改良された「花粉の飛ばない杉の木」ですとの説明がありました。

②管理事務所から駐車場に戻る舗装道路を丸山トンネルまで

カツラの葉は甘い香りがする。イチイの葉や種は毒。リョウブは漢字で「令法」、食料不足の時にコメに混ぜて食べよとのお達しを意味する漢字です。この森ではマムシグサよりミミガタテンナンショウの方が多く見られる。アセビは毒。エイザンスミレやタチツボスミレやニオイタチツボスミレはこの森では良く見られる。



トウゴクミツバツツジは標高の高い処に多く、花はこれから咲くがミツバツツジは、すでに散っている。トイレ横のヒノキは実生の木でした。



エイザンスミレ



タチツボスミレ



ニオイタチツボスミレ

③丸山トンネルから炭窯の横の山道を下りデイキャンプ場まで

キハダは駒井さんが樹皮を少し削ってくれて山吹色の木肌が見え、何人かが削り片を口に含み苦さを体験しました。ホオノキの葉は朴葉味噌朴葉焼の材料。サンショウは葉を口に含んで辛さを味わった。ヒトリシズカ、ルイヨウボタンがあった。ウスバサイシンは葉が薄く花が暗紫色なのが特徴的。フタバアオイは徳川の葵の御紋のモデル。モミジガサ、ヤブレガサ、ミツバウツギ、ナガバノスマレサイシン、アケボノスマレ、シロバナエンレイソウ等を観察した。

ヤマトリカブトは毒草でモミジガサは美味しい山菜、若葉の時期は似ているので要注意。



ナガバノスマレサイシン



アケボノスマレ



ヤマトリカブト

④デイキャンプ場で昼食、休憩後沢を渡り水辺の広場まで

昼食時バーベキュー炉の傍にフデリンドウの花束を見つけ、多くの参加者が写真を撮っていた。昼食後、辰尾がタンポポの茎を使って笛作りを指導したが、小学4年生一人と辰尾だけが音を出せたが全体としてあまりうまくいかなかったので教え方に工夫が必要だと感じた。



フデリンドウ

⑤水辺の広場から記念植樹地に向かって坂道を登る

途中ケヤキ林があり日差しが差し込んで白っぽい樹皮が美しく見えました。更に登った沢筋に、イノシシが掘って水浴したと思われる水溜まりがあり、夥しい量のヒキガエルの卵があったので、飯塚講師が手でくい上げて希望者に触ってもらいました。



⑥記念植樹地の中及びそこを抜けた場所から辺りを眺める

ザイフリボクは沢山の白い花を付け見事でした。6月に黒い実（ジューンベリー）がなるそうです。記念植樹地から見晴らしの良い場所に抜け、辺りを見渡すと、向かいの山の所々にヤマザクラの淡いピンクが薄っすらと見え、眼下にはウコンザクラの淡い黄色の花が咲いていました。

⑦記念植樹地を抜けて登り坂を学習展示館、東屋に向かう

遊歩道のすぐ脇には紫色の代表的な和名スミレが咲いていました。さらに登って行くと非常に貴重な品種のオトメニオイタチツボスミレを見ることが出来ました。

オトメニオイタチツボスミレの特徴は白い花と距のピンク色だそうです。



紫色の代表的な和名「スミレ」

オトメニオイタチツボスミレ

オトメニオイタチツボスミレ

正 面

距のピンク色の部分を拡大

予定した時刻に自然観察を終え東屋にたどり着きました。今回の「春の自然観察会」は、樹木やスミレに詳しい参加者も居られましたが、非常に貴重な品種のスミレを観た時には驚嘆の声を上げていましたし、その他、子供からお年寄りまでの幅広い年齢層の皆さんも実際に自分の口で味わったもの、手で触ってみたものなど、記憶に残ることの多い観察会ではなかったかと思いました。